

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

ニューヨーク事務所での 勤務を振り返って



公立大学法人滋賀県立大学国際化推進室主幹 前田 正志

私が自治体国際化協会ニューヨーク事務所に勤務したのは、今から 22 年前でした。

私に与えられた調査研究課題は、「米国の地方自治体の情報通信政策」でした。当時の日本では、未だインターネットがスタートの頃で、この分野ではアメリカがかなり先行していました。

私は、在籍時にケンタッキー州にある全米州政府協議会 (CSG) に 2ヶ月インターンシップに行き、全米の州政府のインターネット普及率や予算配分、先進事例をつぶさに調査しました。

ネット会議を利用しホームレスと市民と同じ目線での対話を通じて対立を解決したカリフォルニア州サンタモニカ市、ネットでの遠隔地医療を展開していたジョージア州アトランタ市立病院、裁判所と刑務所とをネット接続し、犯罪者の罪状認否を遠隔地で実施したノースカロライナ州の刑務所などに調査出張したり、農村部と都市部との教育平準化を目指したアイオワ州での遠隔地教育の情報収集や地元のネット会議に参加してアメリカのネット社会について議論したりしたことを思い出します。こうした研究成果は、後に北海道庁で講演するなど、自治体行政の電子化に活かされました。

ニューヨーク事務所では、顧客の観光地の案内も大きな仕事の一つでした。案内を円滑にするため、メトロポリタン美術館や自然史博物館に通いつめ、有名な絵画や彫刻の位置を確認したり、所要時間を計算して時間の制約のある顧客に応じたコースを自分なりに考えたりしていました。おかげで、さほど関心の無かった美術やクラシック音楽に興味を持つようになり、帰国前はオペラからミュージカルまでさまざまな音楽を鑑賞しました。

また、鑑賞だけに飽き足らず、カーネギーホールでの「第九合唱」や後にニューヨークタイムズで酷評された、同ホールでのカラオケ大会にも参加するなど、心置きな

く海外生活を満喫していました。

現在は、滋賀県立大学で海外協定校 11 カ国 23 大学からの



外国人留学生の受入や日本人学生の留学の手伝いをしております。今の仕事は、海外勤務時、ニューヨーク市立大学に夜間通学した経験を活かし、多少留学生の気持ちに寄り添った仕事に役立っています。

海外に関心を持たれている自治体職員の方、またこれから海外勤務を控えている方々にとって、今まで経験したことのない感動や異文化ならではの驚きや発見など、さまざまな醍醐味を味わえる外国での生活は非常に魅力的でかけがえのない経験になります。

東京オリンピックを 4 年後に控え、現在日本では外国人旅行者数が 2,000 万人と急増しています。国では、2020 年を目途に外国人旅行者数を 3,000 万人とし、外国人留学生数を 30 万人、日本人の海外留学数を 12 万人とそれぞれ倍増する計画を立てており、国際分野における行政需要もますます増加することが予想されます。

海外経験は、今後の公務員人生にとっても必ずどこかで活かされるものだと思いますので、気後れせずトライしてください。

プロフィール

- 所属：公立大学法人 滋賀県立大学 国際化推進室主幹
- 主な仕事：外国人留学生の受入、日本人学生の留学補助、各種奨学金
- CLAIR 時代の所属：企画部調査課 (1993.4～1994.3)、ニューヨーク事務所所長補佐 (1994.4～1996.3)
- 趣味：ウォーキング、美術、音楽鑑賞